

高齢がん患者の治療選択を支える意思決定支援に関する文献検討

○尾尻菜緒(兵庫県立西宮病院), 日野七海(出雲市民病院), 堀理江(関西福祉大学)

I. はじめに

日本における死因の一位はがんである。また、人口の高齢化が急速に進んでおり、2025年には、65歳以上の高齢者の数が3657万人(全人口の30.3%)に達すると推計されている。近年、アドバンス・ケア・プランニング(Advance Care Planning: 以下ACPとする)の重要性が叫ばれており、高齢がん患者においては、死の恐怖やがんの進行による苦痛が伴う中で、身体機能の老化や、今までの経験に基づく価値観の確立(岡堂ら,1978)により、意思決定は困難になると考えられる。そこで本研究では、高齢がん患者の治療選択における意思決定支援の現状と課題に関して、文献検討により明らかにすることを目的とした。

II. 用語の定義: 高齢者世界保健機関(WHO)の定義にのっとり、65歳以上の対象者とした。

III. 研究方法

1. データ収集方法: 医学中央雑誌 Web を使用し、「がん患者」「ACP」「治療選択」「看護」「終末期」「高齢がん患者」のキーワードを組み合わせ、会議録を除いたもので、過去5年分に限定して検索したところ、200件の文献がヒットした。その中から、研究目的に合致する14件を対象とした。

2. 分析方法: 高齢がん患者の治療選択を支える意思決定支援の現状と課題に着目し、それぞれ関連のある記述を抽出し、コードとした。類似したコードを集めサブカテゴリとし、同様にサブカテゴリを集めカテゴリ化した。

IV. 結果

1. 意思決定支援を行う際の看護師・医療者側の課題: 【多職種での情報共有が困難】、【意思決定支援に関わる時間的・人的不足】、【意思決定支援に明確な判断基準がなく、個別のニーズへの対応が困難】、【医療者への精神的サポートや教育の不足】、【意思決定支援に関する一般病棟看護師の認識や知識不足】の5つのカテゴリと7つのサブカテゴリが抽出された。

2. 意思決定を行う際の患者側の課題: 【予後不安によって意思決定を手放しがち】、【患者の精神的・認知的な要因から意思決定が困難】、【患者と家族間の問題】の3つのカテゴリと5つのサブカテゴリが抽出された。

3. ACPが患者に与える影響: ACPの実施によって、【患者の不安の軽減】、【患者自身が状況を受容し対処法や新たな役存在意義を獲得することができる】、【患者家族の予後の理解・備えになる】、【死を認識し自分らしく過ごすことができる】といった利点があることが明らかになった。

V. 考察

ACPの実施に際しては、医療者側の知識や時間の確保、患者のニーズやタイミング、認知機能に合わせた介入が必要であった。いっぽうで、ACPによって良い効果を得られれば、患者と家族の予後不安を軽減し、自己効力感の向上や自分らしく最期を過ごせることに繋がると分かった。

高齢がん患者への意思決定支援の課題として、加齢による認知機能の低下による意思決定困難があり、家族の代理意思決定による患者自身の意思の反映が難しいことが明らかになった。看護師は患者の代弁者となることに加え、家族も意思決定支援の対象として関わる必要があると分かった。

また、医療者間での連携不足や時間不足、専門的知識の欠如も課題であることが分かった。

VI. 文献

岡堂哲雄,内山芳子,岩井郁子,他. (1978).患者ケアの臨床心理 人間発達学的アプローチ. 医学書院.